



市民らの交流拠点の場としてビルの空き店舗をリノベーションした都城商業高共創ウェルビーイング部のメンバー



交流拠点の場づくりに協力した都城高専生ら

都城商高（共創ウェルビーイング部）

×
都城高専

持続可能な
くらしへ
SDGs
みやざき

同部は「のくにプロジェクト」として、子どもや市民の居場所づくりのための活動をする中で、地域に「ゆるやかにつながる場」の拠点が必要と考えた。市地域プロジェクトマネ

空き店舗活用 交流の場創出

都城市・都城商業高の共創ウェルビーイング部（永田珂里奈部長、17人）は、都城高専生と協力して、同市上町の中心市街地にある空き店舗をリノベーションし、市民交流の場として活用できるようにした。同部の活動拠点になり、人が触れ合えるイベントを計画。企画第1弾として25日午後3時から、駄菓子つかみ取り大会を開く。

中心市街地、25日イベント

ージャー池田浩二さんの協力を受けて、同市上町の千日通り沿いの城西ビル（3階）のうち、20年以上未使用だった1階の2部屋の改装を計画。まちづくりに関心を持つ、同高専建築学科・杉本弘文准教授の教え子も一役買った。

ワークショップやイベントを開く「コミュニティスペース」、部の作業や商品開発をする「まちの実験室」を延べ5日間で整備。部員たちが室内を清掃して壁のクロスをはがし、見栄え良くするためにビルの外壁を白く塗った。高専生たちは専門技術を生かして同スペースにフローリングの木板を張り、室内を塗装、木製棚や机も手作りのした。空間を広々と感じる明るいスペースに仕上がった。

同部が水、金曜日に商品開発やミーティングの場として利用し、週末を中心にイベントを行う。永田部長（17）は「3年間は「多世代が交流し、心のよりどころとなるコミュニティ」づくりにつなげてほしい」と願う。一般利用でにぎわい演出につながるイベントもできる。

★「プレみや」にも掲載
（三輪誠）